

- 目標・方針
- 目標的な学校運営の目標・方針
- （1） 日常生活に人権尊重の理念が根つき、いじめや差別のない学校づくり
  - （2） 個の違いを認め、多様で柔軟な対応による居場所のある学校づくり
  - （3） 児童や保護者、地域の人々と真摯に向き合い、信頼される学校づくり
  - （4） 職場に誇りと愛着をもち、組織の一員として働きがいのある学校づくり

- 本年度の重点目標
- （1） 日常生活に人権文化が定着した学校
  - （2） たがいに学び合う学校
  - （3） 安全と健康に配慮し、安心して過ごせる学校
  - （4） 家庭・地域と連携・協働する学校
  - （5） 勤労意欲と組織力の高い学校

○自己評価

領域	評価の観点	評価項目	達成状況	学校の取り組み状況と改善の方策
学校運営	生徒指導	安全・安心を基盤に、児童の内面理解を徹底し、いじめや問題行動に対する共通認識を高め、早期発見・早期対応を組織ワークで取り組む。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめや不登校など、問題行動を未然に防げるように、休み時間の見守りや、教師間での情報の共有を行い、役割分担をして対応することができた。</li> <li>毎月の生活目標を児童の実態を鑑みて設定し、各クラスや個人で振り返りを可視化することで、目標の定着に向けて工夫して取り組むことができた。今後も児童の良き姿を評価し、良くない行動については、その背景等を聞き取りしながら、良くないことは自覚させ、次の行動へ生かせるような指導を大切にしていきたい。</li> </ul>
	地域との連携	地域の教育資源を活用することで自然や伝統文化に触れ、ふるさとへの誇りを醸成していくための特色ある教育を推進する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>低学年では、地域探検に出かけ、地域の仕事やその仕事に対する思いなどを直接聞き取ることが出来た。中学年では、地域の生き物について一緒に捕まえたり、教えてもらったりした。高学年では、自然学校で、一緒に火起こし体験をしたり、噴気孔探検をしたりして、自然や歴史について学んだ。さつまいもを栽培し、それを地域の人の協力を得て、焼き芋にして食べることが出来た。地域の人たちの思いに触れ、地域の人の温かさを肌で感じ、地域の中で育てられていることを実感できた。</li> </ul>

○学校関係者評価

自己評価の各観点に対する評価

アンケート結果を見る限り、Aで良いのではないが、不登校については、30日以上欠席の児童もいるが、行事等も参加している姿を見ていて頑張っていると思う。先生方には、しっかりと対応してもらっている。校外での様子を見ても、生活指導上の問題はあまり聞いていないのでA評価としても良いぐらいであると感じている。

児童の評価が87.8%を超えているので、Aで良いのではないが、保護者もよく協力してもらっていると感じている。コロナ禍において、なかなか学習ができるのではない部分もあるが、地域との連携はできているのではないかと感じる。コロナでできないことはたくさんあるが、地域でできることがあれば、どんな要望を伝えてほしい。

今年度は参観日等も少なく、子どもたちの学習する様子を見ていないので評価しにくい。時々校内に入ったときに、学習の足跡が分かるように残されていたたり掲示物が貼ったりしている様子を見てみると、落ち着いて学習には望めているのだからと感じている。タブレットの活用なども含め、主体的に学習に取り組むことができるように今後もうまく利用していきたいと思う。

教育課程	学習指導	学習規律の整った授業づくりを努め、国語科において読解力を効果的に身につけられるようRSTを活用し、児童が主体的に学び合えるような授業改善を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習規律の整った授業づくりについては、複数体制を効果的に生かし、全体指導、個別指導のバランスを考慮して今後も取り組んでいく必要がある。また、読解力については、RSTの結果から、国語科だけでなく、他教科においてもRS（リーディングスキル）を意識した授業研究に取り組むことができた。</li> <li>児童が効果的に読解力を身につけられるように、言葉や文章に対する興味関心を高められるような視点から授業改善に取り組む、主体的に学習に取り組める児童が増えてきた。今後は、確かな読解力を高められるよう、児童自身が言葉や文章を読む時の目的意識を持ち、自己の読解力を評価できるように授業改善が必要である。系統的に読解力を育成できるように学校全体でいきたい。</li> </ul>
	道徳教育	道徳の時間を中心に、学校生活全般にわたって全職員が連携して、児童の道徳性を養い、より良い生活を目指す。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳の年間指導計画に基づき、人権教育の視点も大切にしながら、各学年で計画的に授業に取り組むことができた。</li> <li>人権教育の視点については、6年生での人権学習に向けて、1年生から系統的に、身近な問題からおかしいことに気づき、それを伝えていく力を身につけられるように取り組んでいる。同和問題をいじめ、様々な人権問題に取り組むことで、自分も相手も大切にすることを育てている。</li> <li>今後も、児童に対して道徳の時間で気づきを与え、日々の生活の中で実践していかける力を育ていきたい。</li> </ul>

子どもたちの学習する様子を見ていないので評価しにくい。時々校内に入ったときに、学習の足跡が分かるように残されていたたり掲示物が貼ったりしている様子を見てみると、落ち着いて学習には望めているのだからと感じている。タブレットの活用なども含め、主体的に学習に取り組むことができるように今後もうまく利用していきたいと思う。

地域の中でも、気持ちの良い挨拶がよくできているように感じる。地域と一体となって長年取り組んできている成果でもあるだろう。6年生が挨拶をする姿を見て、5年生以下も見習ってだんだんできるようになってきている姿を見て、大変嬉しく感じる。

さまざまな支援が必要な児童がいるが、地域では挨拶をしたり話かけてくれたりするので、気持ちよく生活できている姿を見て安心している。先生方にも、児童に細かく素早く対応してもらっていると感じる。1年生の時から大きく成長していると感じる。スタディアツツアの学習支援等の様子を見ていても、一生懸命に取り組む姿が見られる。子どもたちの声かけや「いつてきます」の挨拶を応援する姿からでも、全校での啓発等が行き届いているように思う。

自己評価の実施方法についての評価

今年度同様の評価方法で良い。ただ、学校での認識と地域での認識とがずれている(地域は、もっと良い評価であると感じている)ので、もう少し具体的にどこができていないのか提示したり、達成状況を分かりやすくしたりしても良いと思った。

※領域（3領域） 学校運営、教育課程、課題教育		※評価の観点例（網羅するのではなく、各学校で観点を絞る）	
領域	観点例	観点例	観点例
学校運営	学校経営、組織運営、生徒指導、進路指導、教職員の育成、危機管理、安全管理、保護者・地域住民との連携、施設設備 等	学校経営、組織運営、生徒指導、進路指導、教職員の育成、危機管理、安全管理、保護者・地域住民との連携、施設設備 等	学校経営、組織運営、生徒指導、進路指導、教職員の育成、危機管理、安全管理、保護者・地域住民との連携、施設設備 等
教育課程	学習指導、道徳教育、総合的な学習の時間、指導方法の工夫改善 等	学習指導、道徳教育、総合的な学習の時間、指導方法の工夫改善 等	学習指導、道徳教育、総合的な学習の時間、指導方法の工夫改善 等
課題教育	特別支援教育、人権教育、福祉教育、情報教育、食育、防災教育、環境教育 等	特別支援教育、人権教育、福祉教育、情報教育、食育、防災教育、環境教育 等	特別支援教育、人権教育、福祉教育、情報教育、食育、防災教育、環境教育 等

学校関係者評価のまとめ

・普段から、本当によくしていたらいいと感じる。下校の放送があるおかげで、地域の見守りも自然と増えてきており、安全に登下校できている。コロナの状況もあり、行事の精選や対応が大変だったと思うが、よく対応していた。児童への対応も、複数の教師が関わって話を聞くなどフォローアップの体制がきちんと取れているのも良いと思つた。タブレットの導入など、新たな時代を生きる子どもたちなので、さまざまな体験活動を取り入れたり情緒面を耕したりしていくことが大切であろう。

※達成状況

A：優れている B：おおむね良好 C：やや改善 D：要改善

学校関係者評価を受けての次年度の改善方向性について

- 学校関係者評価ではA評価をいただいた観点もあるが、どの観点もA評価をめざし次年度も引き続き取り組む。特に、子どもの成長やつまづき、悩みなどの理解をさらに深め、一人ひとりの興味・関心・意欲等を踏まえてきめ細かく指導・支援し、確かな学力を培う。
- ICTを効果的に活用した子ども同士の学び合いや、地域の方々との交流を通して、安心して楽しく学べる魅力ある学校づくりに取り組む。
- 相手を思いやり、自分も相手も大切にできるように行動する力を高める。
- アンケート項目は、今年度を引継ぐことを原則として、経年比較できるようにする。

令和4年3月11日

学校名 丹波市立久下小学校  
校長名 大木 修

